

清流 ニュ ー ズ

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流 寺
清流ニュース編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164
<http://seiryuji.jp.org/>

平成三十一年度総祈願
本年度教化誓願達成
創建七十周年記念事業御有志奉納成就
教区再編成御奉公成就
教務員増加・役中後継者養成
之御願

四月の御総講日

一日 十時 御修行日
七日 十時 バスデー総講
日序上人報恩祈念

十二日 十時 高祖御速夜
開導御命日

十七日 十時 門祖御命日
開導御命日

於 清流 寺

十二日 十時 高祖御速夜
開導御速夜

十六日 十時 門祖御速夜
開導御速夜

廿四日 十時 於 羽 村 別 院
歡尊御命日

特別行事

廿八日 高祖大士立教開宗記念
教化必成一万遍口唱会

会議

一日 御総講後 役中会議
廿五日 御総講後 ブロック
長会議
廿八日 午後一時 参事会

四月廿八日

高祖日蓮大士立教開宗記念日

一万遍口唱会 六時〜十二時

四月廿八日は、高祖日蓮大士立教開宗記念日です。

お祖師様日蓮聖人は、十六歳より三十二歳までの十六年間、比叡山を拠点として、南都六宗といわれた、奈良仏教や、真言、念仏、禅宗等の諸寺を遊学研鑽遊ばされ、仏様の説かれた一切経を三度も読破し、久遠本仏のご本意である、上行所伝本因下種の南〇経こそ、一切衆生救済の法であることを確信せられ、建長

五年（一二五三）の四月廿八日、昇る太陽に向い、声高らかに御題目を唱え奉り、立教開宗を宣せられたのであります。

佛立開導日扇聖人は
吾祖師の
宗旨びらきのはじめには
旭のそらに鶴の舞ひしと
ご教歌に詠まれました。

私共佛立信者は、お祖師様のおかげで、この尊い御法様にお出値いすることができた

のであります。

又ご教歌に

思へ人

祖師御出世のなかりせば
御題目は誰が手よりきく
と、お示し下されています。

時あたかも、高祖大士ご降誕八百年慶讃ご奉公第二年度をむかえ、大恩報謝の志を發して、誓願者全員が教化必成をめざして口唱会に、参加いたしましょう。

四月十三日

本寺・乗泉寺 当番参詣
当山住職 第二座 奉修導師

年に一度の本寺への当番参詣は、四月十三日・第三座に

参詣させていたゞくことになりました。
第三座・十一時三十分・縁結びの座に参詣予定です。
なお、当日は、清流バスの運行も予定されており、申し込みをして活用して下さい。

四月の朝参詣強調週間

二日〜六日

第四五ブロック国分寺・小平

四月の朝参詣強調週間は、第四ブロック（立川、国立）第五ブロック（京王）と、国分寺、小平教区が担当です。

四月二日（火） 立川教区

三日（水） 国立教区

四日（木） 京王教区

五日（金） 国分寺教区

六日（土） 小平教区

功德会会費納入のご案内

一口でも多く

申し込みましょう

四月は、功德会会費申し込みの月であります。

この「功德会」は、当山の第二義納金とも申すことができ、その使途は多岐に亘っております。

因にその使途を次に挙げますと、

- 一、宗門三大奉納金への協力
イ 本山御初灯明料
ロ 高祖会全国奉納金
二、本山や、本寺（信廣会）への協力

三、海外弘通応援

四、年間予算計上外の出費

五、教務員教養費

六、その他対外的な出費

七、佛立新聞購読料

以上、これらすべてが功德会御有志から充たされています。



同帰亭要語録

性分を直す

性格とか、性質とか、いまは申しますが、むかしの人はいったい、性分と云いました。性分とは、性質や性格は天性のもの、つまり生まれつきという性質であるという意味で、しょうが、習性となるという性質もありまして、生まれつきのもの、と更に「育つてゆく途中」でいつの間にかそういう性格が形づくられてゆくものでこれを「性格形成」と申します。この生れ乍らと、育つ環境の影響で、その人その人の特徴が出

来てきますので「性分」と云えば、この両方がふくまれます。「坊ちゃん」として生れて坊っちゃん育ち。
「貧乏の中で生れて貧乏育ち」
「ケチな血統に生れて、金に苦勞したからケチ」
「自己本位」「我儘」「傲慢」「引込思案」「無責任」「依頼心強く」「残酷」「愚鈍」等、悪い性分を数えればいくらでもあります。人間のさまざまな苦しみ、トラブル失望等は外側の圧迫ももちろんありますが、

そのホトンドがその人間の性分に根ざしているということとです。誰でも何か事にぶつかるとあわてふためきオロオロするばかりで、あぐりのはてに、「他の人はみんな幸福そうなのに、私だけどうしてこんな苦しみねばならないのか」と、天をうらむような事を云って愚痴をのますが、これは結果だけしか見えない目でものをしているからで、こうなるのは過去にそのモトになるような「種マキ」が必ずあり、その悪い種がいつの間にか育ち、こんにちの結果を生んだのだという事を知らねばなりません。ではどうして、そういう自分の首をしめるような「種マキ」をするのかというところ、これは「性分」の然らしむるところです。天性ケチな性分のものはどう

しても行動がケチ臭くなります。そうしているうちにケチの報いがやがてやって来るわけです。自分勝手な性分のもものは、やることなすこと、すべて、自分の思うままにふるまい、やがて自分の思うようにならないような苦しみにつかり、二重の苦しみとなります。

たとえば、おできが出来て困ったという。いろいろ塗り薬などつけて一時しのぎをして、これは、「内臓疾患」が原因で、この「内臓疾患」が原因で、そのモトを治さねば皮膚の疾患もよくなりません。皮膚が荒れてカサカサになるのは、肝臓が悪いせいです。肝臓がよくなれば自然にヒフは治ります。

うわべの目に見えるところだけをいくらジッテいても駄目です。根本療法が肝心というこ

とでしよう。罪障と申し、業と云います。これはすべてそのものの「性分」のところにたかまつているわけです。ですから、その悪い「性分」を直せば罪障も消滅します。業からくるあらゆる苦しみも雨散霧消してしまします。

果して、その「性分を直す」ことが可能でしょうか。

「雀百まで踊り忘れず」という諺がありますが、天性のものは一朝一夕では直すことが難しいというのでしよう。御指南に「心入れかれば（一心一念、心が本也）身体気血のめぐりもかほる。感ずればしる。逸するときはほどける。恐れるときは青く怒るときは赤し。不思議也。（開化）

と仰せられてあります。叱言などを云われたときに「心を入れかえてやります」と申しますが、仲々この「心を入れかえる」という事は難しいことと、又、「性分直り難し。若し直すときは定業能転ず」と示され、心を入れかえ、性分を直すことが出来ればすべてが解決するわけです。

御教歌に
「口唱ほどふしぎに妙な行はなし
その身はまめに心かしこに」
上行所伝のお題目を唱え重なるよりほかに、心を入れかえる事も、性分を直すことも出来ません。従って口唱すれば罪障消滅も成就します。

「罪滅の法は口唱の外になし」と示されてあり、性分を直して罪滅するよう努めることが肝心です。